

全員協議会 会議録（要点筆記）

平成31年1月24日（木）

午前11時15分 開会

午前11時40分 閉会

場所： 全員協議会室

〔報告案件〕

1 半田市と常滑市の病院連携協議に関する合意書（案）について

榊原純夫市長：まず本日全員協議会を開催していただきましたことに心より御礼を申し上げます。本日の報告案件半田市と常滑市の病院連携協議に関する合意書（案）についてでございますが、本来であれば議会の答弁等でも説明をさせていただきますとおりの、昨年末までにこういう合意書を取り交わして今年に入ってから具体的な連携についての組織を作り、取り組んでいくところが本来でございましたが、半田市と常滑市、半田病院と常滑市民病院との間でこの協議に関する侃々諤々の議論がございました。本日の合意書の一言一句に関わるまで何遍もやりとりをしまして、事務レベルでおそらく4、50回協議をさせていただいた結果を今日取りまとめて報告させていただきます。なお、常滑市におきましてもほぼ同じ時間に全員協議会が開催されておりまして、常滑の市長さんから常滑の市議さんに同じ内容が報告をされておりますことも含めまして、同じ日の開催をお願いいたしました。大変申し訳ございませんがよろしくお願い申し上げます。

竹内甲司病院事務局長：資料に基づき説明

中村宗雄議員：合意書の中の2つわからないところがあるので教えてください。

項番4の（5）のところに協議会の提言に沿って知多半島医療圏の他の自治体に、費用負担を求めていくということなのですが、求めていくというのはきっと半田と常滑が言っているだけで、求められる側は8つほど自治体があると思いますが、その方たちの合意というのがそれについてどういう取扱いになっているのかが1点、2点目は項番5の（2）不測の事態により経営統合が実現できないと両市が判断したときはやめにするということなのですが、今の時点で考えられる不測の事態というのは一体どういうケースを考えられているのか、その2点だけお願いします。

竹内甲司病院事務局長：1点目の他の自治体にも負担の協力を求めていくことについてでありますけれども、これは今後半田市と常滑市がこの合意書を調印して、合意が取り交わされて、それから他の自治体にもお話をさせていただきたいということですので、まだ他の自治体に正式にお話を出しているという段階ではございませんので、これからの課題というふうで捉えております。それから2点目不測の事態によりということなのですが、今考えられる不測の事態と申しますのは天変地異、具体的に言うと南海トラフ巨大地震が、新半田病院が建つ前に起こった場合、壊滅的な打撃を受けた場合にはちょっと統合も一旦白紙というのか、考え直さなければいけないような事態が起きた場合は解除するこ

ともできるということを想定しております。

中村宗雄議員：不測の事態のところはわかりましたが、他の自治体に費用負担を求めていくというのは、もともと半田病院は常滑と統合する前からこの知多半島医療圏を担っていたわけではないですか。そのときにこの問題について、石川議員をはじめいろんな議員の方が他の自治体の費用負担を求めていくべきではないかということに対して、今まで半田市は、それは無理ですと、そんなことできませんという回答と今回この希望的に、独法をつくったから他の自治体に求めていけるのだという、その理屈がよくわからないのですが、できるのでしょうか。ただ希望的観測で書いているだけなのか、書いた限りは実現可能と判断して書いているのか、どちらなのでしょう。

堀寄敬雄副市長：少し事務局長に私が話をしてなかったので訂正をさせていただきます。一昨日実は知多中部広域事務組合の副市長、副町長会議というのがありました。その場で私はこの課題を出させていただいて、さっき知多半島全体でというもちろんフレームが一番いいと思うのですが、東海市さんには病院がありますし、大府さんは違う方を向いてしますしという事情があるので、今もう一つ背景にあるのは知多厚生病院もなかなか経営が相当厳しい状況にあります。そういったことを含めて言えば南からいうと南知多、美浜、武豊、半田、常滑、阿久比、東浦さんはちょっと刈総との関係があるのでどこまで求めるかは、これから議論のあるところだと思うのですが、少なくともそのくらいの自治体が、半田と常滑が一緒になって経営する知多半島の中核病院に対して、支援をしてくれるような姿勢を示していただけないと将来は知多半島内から病院がなくなるか若しくは知多半島の核たる病院が西知多総合病院のほうになる可能性もあるので、協議会の中で費用負担をしていただいたらどうだという議論がありましたので、今すぐにとは申しませんが、こういう議論があったということをご報告しますので承知しておいてくださいということで、まず第一球は一昨日その会議の中で、おられたのは阿久比の間瀬副町長と武豊の永田副町長と東浦の新しくなられた栗原副町長にはその話をまず投げました。ただ、そこで返事とかを求めていませんので、その場の雰囲気だけで言うと阿久比の間瀬副町長や武豊の永田副町長は理解できないことではないというニュアンスの発言はいただいておりますが、そのことがすぐに金を出すことにつながるかどうかはあれですが、ただ何もやらなくては局面変わりませんので一昨日の段階でそういう話を、消防の会議の中でした話ですので、消防の会議を閉じた後の雑談の域でした話ですが、こういう報道も出ていくのでということもあるので、一昨日直接３人の副市長さんにはさせていただいております。

中村宗雄議員：今の副市長の話ですと、そういう近隣自治体で理解を示してくれているような感じがあるということなのですが、今発言の中で周辺の自治体が一緒になって支えてくれないと新病院をやっていけないのだという新しい事実が出てきましたよね。そう言われたと思いますけど。その確約が取れていないのに、このことを進めていってしまっても大丈夫なのでしょう。別の言い方をすると、言われたことを逆から見るとそう見えてしまうのです。周辺自治体の協力を確約できていない状態で合意して、このことを進めていくというこ

とが果たして順番としてどうなのでしょう。

堀寄敬雄副市長：時間軸をどう見るかの話で、長い時間で見ればたぶん他の自治体の協力を得られないと新しくできる病院は将来消滅してしまうかもしれない可能性、その間に極端に言えば先ほどの地震ですとかいろんな出来事があるのであれですけども、ただ近視眼的には今常滑さんと半田市と一緒に協力し合っていけば、当面そのかたちは維持できるというふうには考えています。ただそれがいつまでだという議論は、また新病院が独法というかたちになったときに、数字面を含めてしっかりとチェックしないといけないという思いです。

石川英之議員：以前、私は一般質問の中で半田病院のざっとのいわゆる市民の利用率が50何%で、他の自治体の市民、町民の方が40何%かいるなかで、応分の負担をもらったかどうかという一般質問をさせていただきました。その中で回答が半田市民であっても他市町の病院を利用している、だからそこは持ちつ持たれつというか、どちらもどちらなので、そういった請求はできませんという答えを僕はいただきました。そんななかで今回こうやって、あなたたちが負担してくれないといずれ知多半島から病院がなくなってしまうなどという、半分脅しみたいな話で、実際に、確かに一昨日の話で理解は示してくれただけかもしれませんが、理解をするということとお金を出すということは、僕は違うと思うのですが、そんな請求ができるのですか。大丈夫なのですか。

榊原純夫市長：今も救急の部分に関しては少しずつですが他市町の皆さんにも負担していただいています。極論を言いますと今私も半田病院が目指しているのは知多半島の南半分をカバーする第3次救急機能であります。それらを維持していこうと思うとやはり皆さんの支えがないと大変ですよということを理解していただいて、十分説明をして協力していただくことに理解をしていただくことを一生懸命やるしかないというふうに思っています。ですから100%、この場でそんなことを言うてはいけないのですが、金を出すことが可能かというとそのお約束はできませんけども、当然、今日全協の中で片岡市長さんは辞意をされるということを言っていましたので、片岡市長さんが辞任されるまでにはこの合意書の締結をさせていただいて、次の市長さんとともに新しい病院の建設に向けて協議をする中で、近隣の市町の皆さんにもぜひ協力してくださいということをお願いしていくことは私どもの責任であるというふうに思っています。少し答えになっていないかもしれませんが、いずれにしても古い半田病院の枠組みですずっとやってきたなかで、急に今の枠組みの中でお金を出すということはやはり難しかったと、今度は新しい急性期に特化したような病院をつくるにあたっては知多半島の南半分の皆さんの命をここでしっかり守っていくということのご理解をいただきながら、そういったことへの協力を求めていくことについて理解をしていただくということの必要性があるというふうに思っております。この近隣の市町の費用負担の件については病院の検討委員会のなかでもご提言いただいていますので、そのことも踏まえてこの中に盛り込ませていただきました。

山本佳代子議員：4番についてお聞きをしたいと思います。(1)の原則として、毎年度総務省が発出する地方公営企業繰出金について、総務省の自治財務局通知を基本とするということなのですから、毎年度総務省が発出するという

ことで、そうしますとこれは毎年両市が協議するというようなそういうかたちにまずなるのかということと、それからここに書いてあるのは平成29年度の繰出金を今見てみたのですが、第5の病院事業の1から16についての負担すべき費用ということの記事でそれを参考にすればいいのかというそこら辺のそもそものところを教えてほしいのですが。

竹内甲司病院事務局長：この総務省の出す地方公営企業繰出金についてというのは、通称私どもは繰出基準と呼んでおりまして毎年度、毎年度、半田市が単独のときでも繰出基準というものに基づいて、一般会計の方で予算を取っていただいて半田病院の方へ繰出金として支出していただいております。これは毎年度総務省の方から出されますので、大きな基本のところは変わりはないのですけれど、多少細かい修正などを加えられながら毎年、毎年出されるものです。半田市も今は一般会計で半田病院に出している、常滑市は常滑市でそれを病院に出しておりますけど、繰出基準はおおまかな基準ですので、細かなところでは半田市の基準と常滑市の基準で微妙に異なっているケースがあります。そういったところも半田と常滑で細かく擦り合わせながら、それに基づいて新しい法人に繰出金を出していこうということを考えております。

山本佳代子議員：そうしますとこれは、法人がやはり最大の経営努力をするということ的前提にということがありますので、そこら辺で両市の負担が当然変わってくるということも考えられるのですけれども、もし経営の健全な維持がなかなかできずに、前に副市長さんが言っているようにとにかく市民の命など守るために最大限私たちは努力するつもりであるということに対して、そこら辺とこの繰出金の兼ね合いというか、そういうのはどういうふうになるのでしょうか。

竹内甲司病院事務局長：少しわかりにくい表現になっていて申し訳ないのですが、(1)については私がさっき申し上げた繰出基準に基づく繰出金、いわゆる総務省が出している繰出金であります。(2)については総務省の繰出基準に基づかないようなものを指しています。通称我々で言うと基準外繰出と言ったりもしますが、そういったものについての取り決めが(2)であります。基準にない繰出しですので、そういったものを出す前にやっぱり法人が最大限の努力をして、経営努力をして頑張っ、それでもだめなときには両市で支えていこうというのがこの(2)の主旨でありますのでご理解をいただきますようお願いいたします。

加藤美幸議員：名称のことなのですが、1枚目、2枚目を見ますと今ここで初めて新半田市立半田病院、以下新半田病院というふうに新しい病院名が出てきたのですが、これは正式に決定なのか、それから経営統合されたときに新半田市立半田病院という名称で使って、では今ある常滑の病院なんかはどういうふうな呼ばれ方をするのか教えてください。

竹内甲司病院事務局長：新しい病院の名称ですとか、それから新しい法人の名称というのはまだ決められたものではなくて、この文書にするときには今の半田病院と今度新しく建つ半田病院とをわかりやすく区別するために、新半田病院というような書き方をしておりますので、まだ何も決まっているわけではありません。

中川健一議員：中身が少しわかればと思ひまして、４の（２）の健全な経営というのの定義がわかればと思ひますが。

竹内甲司病院事務局長：自分のところの収益だけではやっていけなくなるような状態でないものは健全でないというふうに思ひていますので、病院の事業収益と市の方からいただく繰出金のなかでなんとかやっていけるうちは健全だというふうに思ひています。

中川健一議員：これは繰入金も含めた経営の数字ということによろしかったですか。

竹内甲司病院事務局長：そのようにご理解いただきたいです。

中川健一議員：もう一点ですが、４の（３）の住民基本台帳に応じた割合を基本としということ、基本ではないというのは例えばどういうことがあるのか、そういうのはどうやって両市が協議するのかというのがわかれば。

竹内甲司病院事務局長：例えば事務費みたいなもので、例えば人口割でざっというと２対１になるのですが、そういう２対１でなくて均等割にすべきものも何かあるのではないかとこのことをこれから協議していくなかで、いろんな経費を詰めるなかで出てくる可能性がありますのでそういったものについては人口割だけではなくて均等割という考えも持ちたいということで基本という書き方をさせていたひてます。

中川健一議員：するとこれは本当にまだ基本的には人口割だけれども、プラスいろんな分配するのがもう少し今後出てくる可能性はありますよと、そういう理解でいいでしょうか。

竹内甲司病院事務局長：はい、そのとおりです。

中川健一議員：もう一点ですが、２のところの共同で設立することを基本に愛知県等の等とはどういう相手が入るのかわかればと思ひますが。

竹内甲司病院事務局長：許認可権は愛知県がございますので、それ以外ですと国とか、直接経営に参加していただくわけではないのですが医師会ですとかそういった関係、関連するような機関、そういったところとお話も、情報も交換させていただきながら進めていきたいというふうに思ひています。

午前１１時４０分 閉会